

令和2年度(2020年度)

管理事業名	大学・ホームタウン等関連事業				総合計画の 体系	大綱 政策 施策	7 3 2	都市魅力 市民が愛着をもてるまちづくり 本市独自の強みを生かしたまちづくり		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	2	総務費	(項)	1	総務管理費	(目)	32	スポーツ推進費
部局名	都市魅力部	予算執行所属		文化スポーツ推進室・シティプロモーション推進室						
予算大事業名 大学・ホームタウン等関連事業			上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)総務費(項)総務管理費(目)シティプロモーション費 大学・ホームタウン等関連事業							
事業の目的と概要										
・本市とパートナーシップ協定を締結し、市立吹田サッカースタジアムを本拠地とするガンバ大阪を市全体で応援することにより、「ガンバ大阪のあるまち」としてのふるさと意識やホームタウン意識の醸成を図り、市民が愛着をもてるまちづくりを目指すとともに、スポーツの推進及び青少年の健全育成並びににぎわい及び活力のあるまちの創造を図ることを目的とします。各事業については、スタジアムのネーミングライツの対価を活用し、小学生をスタジアムに引きサッカー体験や防災体験を行う「市民ふれあい事業」を始め、幼稚園や小学校へのガンバ大阪アカデミーコーチ派遣事業等を実施しています。 ・市内の5つの大学および大学教育機能をもつ研究機関、市外の1つの大学と連携を図ることで、各機関が有する豊富な知的財産、人材、情報、施設などをまちづくりの各段で生かし、双方の発展に寄与する取組を進めます。										

I 事業の成果(実績)

指 標 名		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成 果 指 標 の 定 義
プロサッカー吹田市民入場者数		人／試合数	13,853／17	14,452／17	7,240／17	ホームゲーム(J1リーグ)における吹田市民入場者数
ホームタウン推進事業参加者数		人	14,686	4,640	2,406	ガンバ大阪と市民のふれあいイベントなどの応援イベントや、キッズフォローアップ事業への年間参加者数
大学との連携事業の参加者数		人	183	178	60	各大学との連携事業への年間参加者数(目標人数:160人)
成果の説明	ホームゲーム(J1リーグ)における吹田市民入場者数については、J1リーグIDでのチケット購入者からデータを抽出しています。前年度比が約2分の1となった理由としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観客数が大幅に制限されたことが挙げられます。					
	ホームタウン推進事業については、キッズフォローアップ事業(コーチ派遣:2,022人、中学生女子サッカー教室:384人)の参加がありました。前年度の比約2,000人減の理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民ふれあい事業やJ1リーグ市民招待事業など、市民が参加できるイベントが開催中止となったことが挙げられます。					
大学との連携事業については、大学連携の窓口として大学連携推進協議会等を実施し、市と各大学とのつながりを広げています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、最少人数での開催や書面開催としたため目標の参加者数には至りませんでした。						

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)				
勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	2	-	△2
経常収入 小計(a)	-	2	-	△2
給与関係費	-	633	5,218	4,585
物件費	-	64,836	62,583	△2,253
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	2,981	-	△2,981
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	-	-	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	-	657	657
退職手当引当金繰入額	-	-	4,887	4,887
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	-	68,450	73,346	4,896
経常収支差額(a)-(b)=(c)	-	△68,448	△73,346	△4,897
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別費用 特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	-	△68,448	△73,346	△4,897
一般財源充当額	-	6	5,649	5,643
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	-	△68,442	△67,697	746

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決 算 額 の 主 な 内 容
経常費用 物件費	委託料 45,285千円 役務費 17,160千円(広告料)ほか

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	2	-	△2
行政サービス活動支出	-	68,450	68,239	△211
行政サービス活動収支差額	-	△68,448	△68,239	209
投資活動収入	-	68,442	62,590	△5,852
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	68,442	62,590	△5,852
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	-	△6	△5,649	△5,643
一般財源充当額	-	6	5,649	5,643
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	投資活動収入:ネーミングライツの対価を積み立てているスポーツ推進基金からの繰入金
--------------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指 標 名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
ホームタウン推進事業1人あたりのコスト	平成30年度		円	ホームタウン推進事業に係る費用の全ては、スタジアムのネーミングライツの対価を活用しています。委託料等だけでなく、パートナーメリットとしての事業実施があるため、広告料としての17,160千円を含んだ額で単位当たりのコストを算出しており、結果、参加者1人あたり30,485円のコストがかかっています。
	令和元年度	4,640 人	14,752 円	
	令和2年度	2,406 人	30,485 円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	-	657	657
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	-	657	657
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	固定負債	-	4,449	4,449
土地	-	-	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	-	4,449	4,449
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	負債の部合計	-	5,107	5,107
土地	-	-	-	純資産	-	△5,107	△5,107
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-	純資産の部合計	-	△5,107	△5,107
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	-	-	-	負債及び純資産の部合計	-	-	-

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

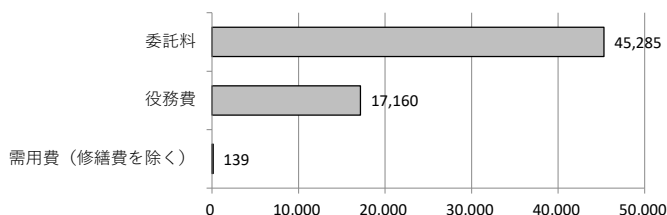
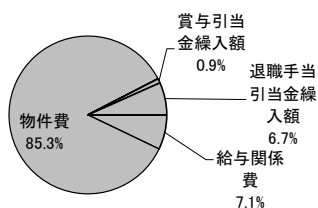
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	
事業従事人数	0.75 人	日	日	
給与関係費等	10,763 千円	千円	千円	合計(千円) 10,763
内、時間外勤務手当	0 千円			

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		-	0.0	8.3	8.3

▽その他特記事項

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

ホームタウン推進事業については、市立吹田サッカースタジアムのネーミングライツで得た対価を積み立てたスポーツ推進基金から62,590千円を当該事業へ充当し事業を実施しました。コスト全体の85.3%を物件費が占め、そのうち事業委託料が約72.4%、広告料が約27.4%を占めています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により市民ふれあい事業等のイベントが中止となりましたが、キッズフォローアップ事業、ピブス製作配布事業、ガンバ大阪選手着用ユニフォームパンツ「吹田市」掲出等を実施することで、ホームタウン意識の醸成が図られました。各大学との連携事業については、職員が各大学との連絡・調整や大学連携推進協議会等の開催に係る事務処理を行っています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

ホームタウン推進事業については、さらにホームタウン意識の醸成を図るため、市だけでなく市内のガンバ大阪を応援する団体などとの連携・協力を強化し、オール吹田での取組を進めるとともに、事業の拠点をスタジアムだけではなく市内全域へと広げる必要があります。各大学との連携については、大学ごとの特色を活かした問題解決型授業等を実施する他、大学が持つ専門性を活かした連携ができるよう大学連携推進協議会等の場を用いて協議を進め各大学との連携のあり方を検討してまいります。